

NPO
もりねこ

大切な命をつないで



猫のために広いスペースを確保している同シェルター

盛岡市菜園に キャットシェルター ハンデに理解、保護を

NPO法人もりねこ（工藤幸枝代表理事）はハンディキャップを持つ猫のためのシェルター「タイコウクロノープキャットシェルター」を12日、盛岡市菜園2の6の6三栄ビル5階にオープンさせた。猫エイズや猫白血病に感染した猫、肢体不自由な猫などを保護し、新たな飼い主に引き渡す施設。クラウドファンディングによる資金でフロア120平方メートルを改装し、現在10匹を保護している。田端美樹理事は「猫エイズに感染していても発症するまでは普通の猫と同様に飼え、生涯発症しない猫もいる。病気や障害への偏見をなくし、それを個性と捉えてくれる家族に引き渡したい」と話している。

病気や障害を理由に殺処分される猫を減らすために開設。インターネット経由で支援を求めるクラウドファンディングで改装費用を募り、約2カ月で314万2400円を集めた。当初の目標額の2倍を超える資金となり、猫の幸せを願う温かいコメントも寄せられた。通常より引き渡しまで時間を要する猫たち。医療費や運営費などに充てたい」と田端理事は感謝する。今後の運営費用などは、同法人の会費と募金で工面するという。猫エイズとは、ウイルスで体の免疫力が低下し口内炎や風邪などが起こる病気。感染経路は血液で、出血を伴

盛岡タイムズ2017年1月12日(木)

盛岡タイムズ 2017年1月12日付
この記事・写真等は盛岡タイムズ社の許諾を得て掲載しています。

う激しいけんかなどをしなければ感染せず、人間にはうつらない。交尾による感染を防ぐため、シェルターの猫は全て避妊去勢手術済み。広めのスペースを確保し入場数を1回10人に制限するなど、発症の要因となるストレスをかけない工夫もされている。公開時間は火曜と水曜を除く正午から午後6時まで。同ビル2階「猫カフェもりねこ」で受け付け後、見学できる。1回1時間程度が目安。見学や引き取り、募金については同

店（電話61317773）まで。もりねこは、保健所や個人から引き取った猫を新しい飼い主になく活動をしている。新しい家族に引き渡した猫は220頭を超えている。